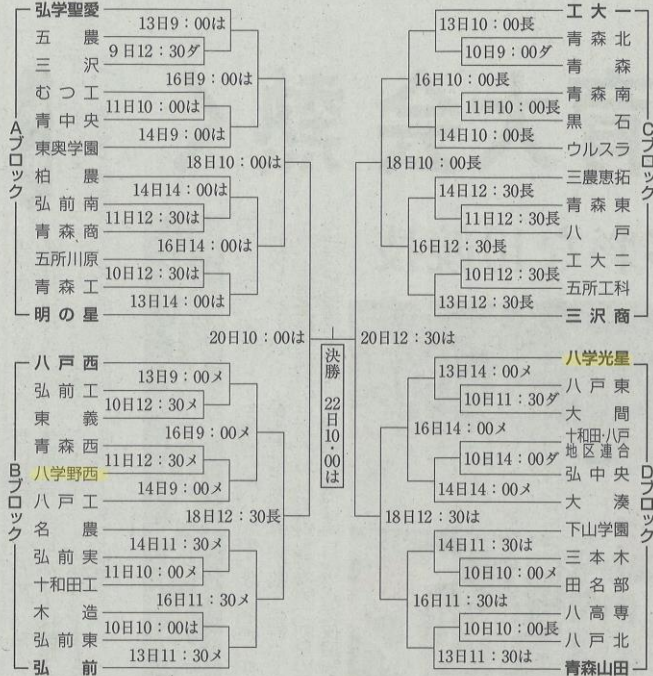


第106回全国高校野球選手権青森大会組み合わせ

(参加校=48チーム、太字はシード)



会場
 は：はるか夢球場(弘前市営) だ：ダイシンベースボールスタジアム(青森市営)
 長：八戸市長根球場 め：メイプルスタジアム(六戸町)
 ※十和田・八戸地区連合=六ヶ所、七戸、野辺地、八戸商、百石の連合チーム

光星、青森山田同ブロック

高校野球青森大会組み合わせ

第106回全国高校野球選手権青森大会(7月9日、相手が決まった。春季県大会の組み合わせ抽選会3位の工大二は青森北一、学光星は、昨秋の東北吉野、青森市青森県青森市で行った抽選会が28日、青森市の青森県総合社会教育センターで行われ、青森は八戸東・大間の勝者、青森山田、第2シードと1チームが抽選、残る40チーム三沢は五農との開幕戦に勝つ。

Dブロックは八学光星と青森山田の2強。八学光星は昨秋の県大会、東北大会で青森山田に睨まれた連敗のリベンジに燃える。いまだ甲子園出場がない大塚、田名部、大間の下北半島3チームの躍進も期待される。大会初日は、青森市ダイシンベースボールスタジアムで開会式(10・30)を行い、青森東の荒木関準主将が選手宣誓、五農一三沢の開幕戦(12・30)を実施する。

10日のみダイシンと八戸市長根球場、六戸町メイプルスタジアム、弘前市はるか夢球場の4会場、11・15日の3回戦までダイシン以外の3会場で開催される。準々決勝以降ははるか夢が舞台となる。日程が順調に消化されれば29日が決勝で12、15、17、19、21日が休養日と移動日となる。(森田友人、磯野雄太郎)

甲子園へ照準、あふれる闘志 県南シード4校の主将

春8強で、チーム史上初の夏3連覇が懸かる八学光星。砂子田陽士主将は、「3連覇のチャンスがあるのは自分たちだけ。歴史に名前を刻めるように」と闘志を燃やす。

順当に勝ち進めば、昨秋に一度、敗れている青森山田と4強入りを懸けてぶつかる。「リベンジしよう」とずっと思ってきた、チャレンジャーとして全力で戦うと気合十分だ。

同じく春8強の八戸西・山田琉生主将は、「戦1戦粘り強く戦って、9年ぶりの聖地を目指す三沢商の蛇名汰成主将は「機動力を持ち味に甲子園を目指す」と、それぞれ意気込んだ。

○夏の甲子園への切符を掛けた青森大会の組み合わせが決まり、県南地方のシード4校の主将はそれぞれ意気込みを語った。春3位・工大一の山田龍主将は「夏は2年連続決勝で悔しい負け方をしているので今年こそ優勝する」と14年ぶりの戴冠へ照準。同じブロックには対戦経験がない相手もいる。しつかり準備していく」と力を込めた。

組む合わせ抽選に臨む(右から)工大一の山田龍主将、八学光星の砂子田陽士主将、八戸西の山田琉生主将、三沢商の蛇名汰成主将=28日、青森市